

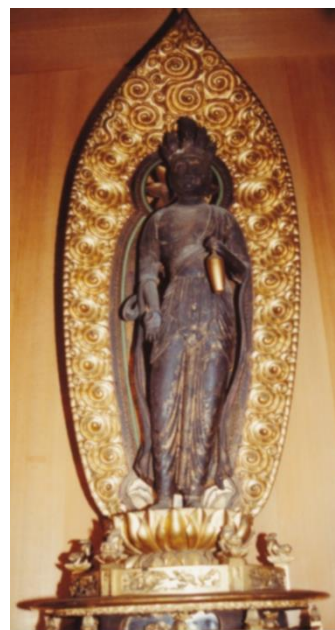
## 歓喜寺 中島通5丁目



1897（明治30）年、若林鉄心によって建てられた曹洞宗の寺院で山号を秋葉山（あきばさん）という。本尊の十一面観音像（頭上に十一の顔をいただいているところからこの名が付く）は1914（大正3）年に国の重要文化財に指定された藤原時代・一木造の秀作で、像高が88.4cmある。この観音像は元周防国岩国の領主・吉川監物の念持仏であったと伝えられている。

この寺は第二次世界大戦で本堂や庫裏などが焼失したが、その際、本尊の十一面観音は多田神社に逃れていたため無事であった。終戦後、しばらく東福寺を間借りして寺の活動を続けていたが、一年後に元の場所に戻り、仮本堂を設置した。現在の本堂は1967（昭和42）年に復興されたものである。なお、本尊の十一面観音は一般には公開されていない。

また、阪神・淡路大震災の犠牲者を慰霊するため、境内に、震災三回忌にあたる1997年（平成9年1月15日）に「慕心（もしん）」と刻まれた遠藤泰弘デザインの慰霊碑が建立された。



国重要文化財  
十一面観音像

※文化財の写真は著者提供（1994年撮影）

場所：中島通5丁目1-40

### ●「中島通（なかじまどおり）」の由来

もともこの地に「中島」という字名があり、それが町名になったといわれるが、一説にはこのあたりの耕地整備を請負ったのが中嶋組でそれにちなんだともいわれており、定説はない。

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著

## 歓喜寺 中島通5丁目

●「籠池通（かごいけどおり）」の由来

水漏れの多い池のことを一般に「かご池」といい、農村時代に旧筒井村の灌漑用の池がこのあたりにあったが、その池の水漏れがひどかったことから名付けられたという。

●「野崎通（のざきどおり）」の由来

旧筒井村の上筒井に東野という高台があり、その先端を「野さき」と呼んでいたのが地名になったという。

●「坂口通（さかぐちどおり）」の由来

このあたりが摩耶山への登り口であり、また上筒井の高台の東野への上がり口でもあったことから、「坂口」と呼ぶようになったといわれている。